まっすぐのびた木々の　更に上
朝の光が　染めきらぬ布にも似た色で
うす青い空の外側を包んでいる

背すじをのばして　凍てついた空気を吸い込み
鼻の奥に　甘い香りをさがす

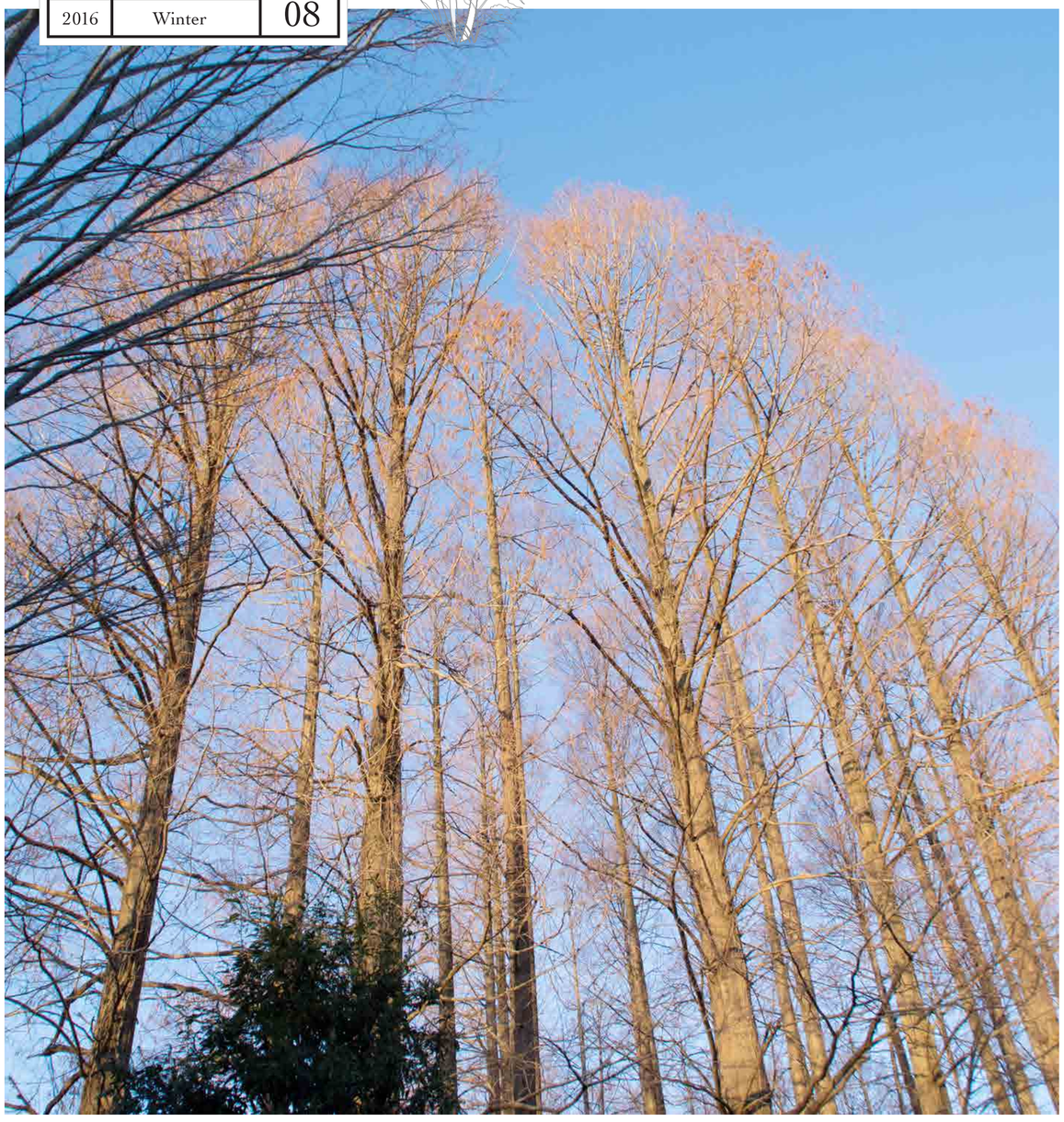
さみしかった枝には　やがて鳥が飛び交い
ちいさなつぼみが　少しずつ肩の力をゆるめる

さぁ　あたたかいものがいっぱいつまった季節がやってくる
あなたの一歩を迎えるために

ひばりが丘の街に和を描く
コミュニティメディア

# A'ERU アエル


| MACHINI-WA HIBARIGAOKA | | vol. |
|---|---|---|
| 2016 | Winter | 08 |

## A'ERU（アエル：会える・和える）

## 『AERU（アエル）』は参加型のコミュニティメディアです

『AERU（アエル）』を通して、いろいろな情報や人々に「会える」。人と人がつながったら、「和える」。色とりどりの考えが混ざり合って、嬉しいことがもっともっと広がっていく。『AERU』は、ひばりが丘団地再生事業区域のエリアマネジメントを担当する一般社団法人まちにわ ひばりが丘が発信する、この街に和を描くための情報メディアです。

『AERU』では、現在こんな人や場所、情報を募集しています。

AERUの記事を
一緒に書いてくれる
ライターさん

AERUの表紙を飾る
写真を撮ってくれる
カメラマンさん

ひばりが丘の
まちの有名人情報

ひばりが丘の
あなたの
お気に入りのお店

AERUにこんなこと
載せてほしい！

お気軽に info@machiniwa-hibari.org までご連絡ください！

## イベントプレイバック

これまでの まちにわ ひばりが丘 主催イベント
参加者合計 のべ **2,965** 名

年末の年越しそば、年始のお餅つきイベントなど季節の行事が開催された冬。たくさんの方々にお越しいただきました。12 月からは第 3 期まちにわ師養成講座もスタート。連続講座を通して、「街に和」を描く活動仲間が新たに加わりました。まちにわリビングではひばりテラス 118 では他団体さんとのコラボ、COMMA,COFFEE の特別営業イベント「BAR,118」では「ゲームボード night」を開催するなど、ひと味違ったイベントも開催されました。

## 「街に和」の重要性

近くで暮らす人がどんな人かを知っていると、
困ったときに助け合えて、毎日がもっと楽しくなる。

### 1 暮らしを楽しくする

小さなお子さんのいるご家庭や、ご年配の方の中には、遠くまで出かけるのは大変…と感じている方も多いはず。すぐに歩いていける距離に友人が増えると、何気ない日常に笑顔が飛び交います。

### 2 課題を解決できる

悩んだとき身近に相談できる人がいて、また周囲からも見守る視点があること。そんな人と人とのつながりがあることで、災害、犯罪、孤独な子育て、人の無縁化など多くの社会問題の解決につながります。

### 3 建物・施設管理の質を高められる

マンション管理の現場にて、議論がしづらいという声をよく聞きます。それはマンション内に良好な人間関係が築けていないから。あるイベントで顔を合わせたり、日頃から挨拶を交わしたりする仲ならば、より建設的で活発な議論がしやすくなり、スムーズな合意形成につながります。


MACHINI-WA HIBARIGAOKA
発行元：一般社団法人まちにわ ひばりが丘
編集長：高村和明
制　作：岩穴口康次、渡邊篤子（まちにわ師）
浅見美沙、田中宏明
表　紙：平田武（写真）
岩穴口亜紀（詩）
問合せ：info@machiniwa-hibari.org
ＷＥＢ：http://machiniwa-hibari.org
発行日：2017 年 2 月 28 日


## メールマガジン無料配信中！
## ご登録はこちらから

月 2 回「まちにわ ひばりが丘」の情報や、イベント情報などをお送りしています。左の QR コードから登録、または、件名を「メールマガジン登録希望」として info@machiniwa-hibari.org までご連絡ください。


## 賛助会員募集中！

まちにわ ひばりが丘 2016 年度法人賛助会員
理研テクノプラント株式会社

# 「ひばりが丘を住み続けたいと思う街にしたい」

## 2016年を振り返り、2017年度につなげる「まちにわ座談会」開催

**今回は、日頃、まちにわ ひばりが丘の運営や活動に携わっているみなさん（一社）まちにわひばりが丘事務局、ひばりが丘フィールズのコミュニティ担当理事、まちにわ師）にご参加いただき、1月22日（日）にひばりテラス118で開催された「まちにわ座談会」の様子をお伝えします。**

### 立ち寄りやすい「ひばりテラス118」へ

第1部は、「2016年度アンケート結果」や「まちにわ師インタビュー結果」などの報告による現状の把握が行われました。

まず、東京工芸大学の森田芳朗准教授より、ひばりが丘団地エリアの住民の方のアンケート結果の報告。まちにわ ひばりが丘の認知度は約6割ほどで、約1割の方がひばりテラス118の利用やイベントへの参加をされています。一方で、「どんな活動をする団体なのかあまり知らない」「ひばりテラス118で何をやっているのか見えないから入りにくい」という意見もありました。まちにわ ひばりが丘の目的や日々の活動をわかりやすく伝え、より気軽にひばりテラス118を利用してもらったり、イベントに参加してもらったりする働きかけなど、今後のヒントも読み取れました。

### 街の人たちを繋げ、笑顔をつくり出したい

ボランティアチームのまちにわ師に関する意識や活動状況のインタビュー調査の報告では、「特に活動の期限は設けず、活動していきたい」という継続的な活動を考えているまちにわ師が多いことが挙げられました。また、やりがいとして「参加者間にコミュニケーションが生まれ、繋がってく場にいられること」や「色々な発見や気づきを通じて、自己の成長に繋がっている」というように、住民のみなさんと共に自身の成長も感じながらまちにわ師として活動している様子が伺えました。

### 人とのつながり、体験を、より多くの層へ

第2部は、まずテーブルごとに2016年の活動を通じて、それぞれの立場で感じた「良かったこと、良くしていきたいこと」を「施設運営」「情報発信」「イベント」といったカテゴリーを軸に議論をし、発表を行いました。

- **人とのつながりが増えた**
- **自分自身も色々な体験ができた**
- **集合住宅固有の防災対策などを伝えたい**
- **よりわかりやすい、伝わりやすい情報発信をしていきたい**

このように出てきた意見をもとに、今後の取り組みを考えるうえで重要なテーマを設定し、4テーブルで意見交換をしました。出てきた意見の一部をご紹介します。

### 自然とみんながコミュニケーションをとれる場所

**テーマ①は、「行ってみたくなる施設ってどんなところ?」**

カフェや貸し部屋など「各個人の目的が達成できる施設」といった意見の一方、縁側のような「目的なく立ち寄っても、自然とコミュニケーションがとれる施設」といった対極的な意見も出ました。また、ハードの整備だけでなく、案内や使い方の情報発信などを充実させて、「行ってみたくなる施設づくり」に取り組んでいくことが重要なようです。

**テーマ②は、「コミュニケーション・情報共有力を高めるためには?」**

議論の中では、「情報共有の必要性」といった根本的な投げかけもありました。まちでの情報共有は目的や意図を明確にすることが大切。日々の細かい部分まで見直して、多くの人に情報が届くようにしていきたいですね。

### 「楽しい思い」がまちをつくる

**テーマ③は、「イベントのリピーターをどうつくるか?」**

やはり何度も足を運んでもらうためには、義務的ではなく、自らも参加したくなるような積極的な働きかけが必要、という意見などが出ました。初めての方でも参加しやすいきっかけづくりと、そのきっかけが単発にならずに続く仕組みを考えてイベントづくりをしていきたいと思います。

**最後のテーマ④は、『まちにわ』の良さって何?**

複数の事業者と住民の組み合わせによる、行政単位などの枠にとらわれない活動に対する評価が意見に挙がりました。住む人が感じる良さの積み重ねが街への愛着につながるはず。まちにわに感じる良さもその一つになれるように頑張っていきたいと思います。

**ー2017年度も「ひばりテラス118」を活動の拠点として、様々な人とのつながりや体験ができるよう活動していきますので、ぜひ、みなさんでひばりが丘の街をつくっていきましょう!**

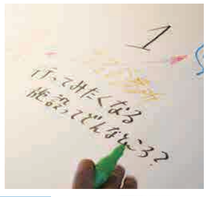


写真
《座談会に参加されたみなさん》
まちにわ ひばりが丘事務局、ひばりが丘フィールズ・コミュニティ担当理事、まちにわ師

# INFORMATION

困ったときに助け合えて毎日がもっと楽しくなる街に

## ひばりテラス 118

### ひばりが丘フィールズ向け 防災ワークショップを開催しました！

1日21日（土）、ひばりテラス118において、ひばりが丘フィールズにお住まいの方対象の防災ワークショップがおこなわれました。

講師は Community Crossing Japan の吉高美帆さん。防災、減災の研修の専門家として、ひばりが丘でのワークショップをお願いしています。

今回は少人数のグループに分かれての自己紹介から始まり、自分の気づきや感想等を書いたり、発表することによって、災害時の対応について理解が深まっていきました。特に今回のテーマ「トイレ」は、生活するうえでは避けて通れない問題なので、参加されたみなさんには大変ご満足いただけたようです。

次回は 3 月 18 日に防災講座「東日本大震災のリアルから学ぶ まちとしての備え」が予定されております。こちらはどなたでもご参加いただけて、まちにわ ひばりが丘個人会員、ひばりが丘団地自治会員は参加費無料になります。ぜひ「よき避難者」の仲間を増やしていきましょう。ご参加、お待ちしております！

#### 「防災ワークショップ」アンケートより

- 問題意識を共有し、参加できなかった人にも知って欲しい。
- 今回のテーマ（トイレ）についてはほとんど考えていなかったので、それについて考えることができて良かったと思います。
- 他のテーマについても、是非参加させて頂きたいです。
- 皆さんと話し合った事で、気付いてない事を気付かせていただいて、対策をイメージしやすくなりました。
- 大震災の経験をふまえた具体的で、リアルな勉強になった。
- 自助と共助の大切さ、特にマンションの強みを活かした共助体制を作れることに気付いた。

#### 講師から一言！

**防災減災への近道は、私たち自身が「よき避難者」となること。受け身で支援を待つのではなく、変化する状況のもとで主体的に適正な行動を取ることができる避難者です。日頃から必ず行っていただきたいことは「家具転倒防止」、特に寝室には大きな家具を置かないでください。また、備蓄品として準備されているラジオは「地域のコミュニティ FM（FM 西東京 84.2MHz）」に合わせておいてくださいね。そうそう、マンション防災には災害用トイレも欠かせないのですが…気になる方は、ぜひ防災ワークショップへお越しください。皆さんの不安を分かりやすく解消させる、お手伝いをしたいと考えています！**

**Community Crossing Japan**
**吉高美帆**

## まちにわからのお知らせ

### 3/18（土）まちにわ防災講座「東日本大震災のリアルから学ぶ まちとしての備え」

ひばりが丘団地エリアでの防災減災について考えるまちにわ防災講座。
今回は一般社団法人まちにわ ひばりが丘が主催し、ひばりが丘団地自治会と共催。
内容も特別編として、宮城県南三陸町を拠点に「よき避難者」を育成する防災減災事業に取り組む復興応援団代表の佐野哲史さんをお招きし、お話を伺います。
東日本大震災での復興活動から見えてきた、地域として日頃からできる備えについて、一緒に考えましょう！
申し込み・お問い合わせは事務局まで。

**日時：2017 年 3 月 18 日（土）13:00〜15:00**
**会場：ひばりが丘パークヒルズ 南集会所**
**参加費：まちにわ ひばりが丘個人会員・・・無料**
**ひばりが丘団地自治会員・・・無料**
**その他・・・1 家族 500 円**

## まちにわ師コラム

### まちにわ師活動日誌＃3

昨年 10 月に「ひばりテラス 118」で行ったイベント「NIWA JAM 2016」の中で、100 人が一同に介し、一緒に食事し、交流する「まちにわ食堂」を開催しました。このイベントは、フランスでおきた高齢者の孤独死をきっかけに、住民が、交流を目的とした食事会を行ったことから始まったイベント「隣人祭り」を基にしています。「まちにわ師」として、これからも色々な形で、ひばりが丘の街に暮らす多世代の方々が自然と交流できるきっかけとなる活動を続けていければと思っています。もし、ご興味のあるイベントがあったらぜひ、一緒に楽しみましょう！！

筆者：まちにわ師　岩穴口　康次

お問い合わせは以下のご連絡先まで。
Tel：042-452-5758
Mail：info@machiniwa-hibari.org